

第15回

全国 散居村 サミット in 小矢部

令和4年

10月24日(月)・25日(火) クロスランドおやべ

全国散居村連絡協議会総会

基調講演・パネルディスカッション

散居村サミット

市内視察(散居巡見)

主催 / 全国散居村連絡協議会 (加盟市町: 岩手県奥州市・山形県飯豊町・島根県出雲市・入善町・砺波市・高岡市・南砺市・小矢部市)

第15回

全国散居村サミット in 小矢部

テーマ

散居村とSDGs

プログラム

令和4年10月24日(月) 会場：クロスランドおやべ

14:15 全国散居村連絡協議会総会

散居村サミット

15:30 基調講演

演題「散居村の今昔～未来に向けて～」

地域文化総合研究所 代表

長谷川孝徳氏

パネルディスカッション

・コーディネーター

地域文化総合研究所 代表

長谷川孝徳氏

・開催都市

小矢部市長

桜井 森夫氏

・パネリスト

いなば農業協同組合 代表理事組合長

黒田 順郎氏

富山大学 学術研究部 芸術文化学系 教授

奥 敬一氏

おやべメルヘンガイドの会 会長

山崎 康子氏

17:05 サミット共同宣言

令和4年10月25日(火)

9:00 市内視察(散居巡見)



全国散居村サミット参加自治体

全国散居村サミットは、日本の原風景である散居村を有する岩手県奥州市、山形県飯豊町、島根県出雲市、富山県入善町、富山県砺波市、富山県高岡市、富山県南砺市、富山県小矢部市の全国8市町が一堂に会して、散居村の特性を活かしたまちづくりや散居村における課題などについて意見交換、情報交換を行います。

本年は、水資源豊富な肥沃な大地に、美しい田園と散居村の風景が広がる富山県小矢部市での開催となります。本サミットを通じて、散居村に関する住民意識をさらに醸成し、また、散居集落を有する自治体の交流を通じて、全国に散居村の地域の魅力を広く発信する機会となることを期待します。



沿革

第1回(平成6年)	富山県砺波市	散居・屋敷林と生きる
第2回(平成7年)	岩手県胆沢町	散居のまちづくりの課題と展望
第3回(平成8年)	島根県斐川町	日本の原風景を考える
第4回(平成9年)	静岡県大井川町	「住みよい、魅力あるまちづくり」をめざして
第5回(平成12年)	富山県入善町	「環境と共生」する21世紀社会に向けて
第6回(平成15年)	富山県砺波市	散居における快適な生活環境の創造
第7回(平成17年)	山形県飯豊町	散居と自然に暮らす
第8回(平成19年)	富山県砺波市	「散居村」の水環境
第9回(平成21年)	島根県斐川町	地域で守り、伝え、育てよう散居風景
第10回(平成23年)	岩手県奥州市	水のめぐみと散居の未来
第11回(平成25年)	富山県高岡市	散居村の役割
第12回(平成27年)	富山県入善町	散居村における地方創生について
第13回(平成29年)	山形県飯豊町	田園散居集落景観を次代へつないでいくために
第14回(令和元年)	富山県南砺市	散居景観を活かした地域づくり

岩手県奥州市

地域の個性がひかり輝く 自治と協働のまち

面積	993.30km ²	市の花	さくら
人口	112,538人	市の鳥	きじ
世帯数	46,149戸	市の木	もみじ



奥州市長

倉 成 淳

奥州市は、岩手県の内陸南部に位置し、市の中央を流れる一級河川・北上川の西側には、ブナの原生林が多く残る焼石連峰に源を発する胆沢川によって開かれた胆沢扇状地が広がり、水と緑に囲まれた散居のたたずまいが広がっています。

稲作を中心とした複合型農業による県内屈指の農業地帯であり、また、交通の利便性の良さを背景に商業集積が進み、工業団地等が整備され、伝統産業や基幹産業の事業展開が図られています。

当市は、豊かな自然環境、美しい農村風景、先人たちが築いてきた伝統と文化を礎に、「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち奥州市」をスローガンに掲げ、より住みよいまちづくりを進めています。

奥州市ホームページ



山形県飯豊町

やっぱり、飯豊で幸せになる

面積	329.41km ²	町の花	ゆり
人口	6,616人	町の木	もみじ
世帯数	2,313戸		



飯豊町長

後 藤 幸 平

飯豊町は、山形県の南西部に位置した農山村です。町内の8割以上を緑豊かな山林が占め、飯豊連峰から流れる清流置賜白川が町を縦断して最上川に注ぎ、その扇状地には、稲作地帯が広がっています。また、田園地帯に散在する屋敷林に囲まれた住宅が広がる「田園散居集落」が美しい景観を形成しており、明治10年に横浜から北海道まで旅をした英国の旅行家「イザベラ・バード」は、この田園風景を著書「日本奥地紀行」の中で「鋤で耕したというより鉛筆で描いたように美しい。実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア（桃源郷）である。」と称しています。

第5次飯豊町総合計画では「やっぱり、飯豊で幸せになる」を基本理念に掲げ、先人たちが築き、守り続けた最上川源流から田園散居集落までの美しい景観や農村文化を次世代に継承するまちづくりを進めています。

飯豊町ホームページ



島根県出雲市

「出雲力」で 夢☆未来へつなげ
誰もが笑顔になれるまち

面積 624.32km²

市の花 菊

人口 174,226人

市の木 黒松

世帯数 68,706戸



出雲市長

飯塚 俊之

出雲市は島根県の東部に位置し、北部は島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されています。「神話の国出雲」として知られ、出雲大社、荒神谷遺跡などの歴史・文化遺産と、夕日が映える日本海や、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然を有しています。

斐伊川と神戸川に育まれた豊かな出雲平野は農業生産力の高い地域であり、その水田地帯には、天辺を平らに刈り揃えた「築地松」のある家屋敷が散在し、独特の美しい散居景観がつけられています。また、山陰地方有数の工業、交通や医療福祉の拠点であるとともに、豊かな自然環境を活かして農林水産業の振興を図り、さらには、科学、芸術文化、スポーツの振興にも力を入れています。

このような、出雲市の持つ高い潜在力やご縁を大切にする人の力などあらゆる力を結集した「出雲力」を生かし、誰もが笑顔になれるまちづくりを進めています。

出雲市ホームページ



富山県入善町

扇状地に夢と笑顔があふれるまち入善
～子どもたちの未来のために～

面積 71.25km²

町の花 チューリップ

人口 23,431人

町の木 こぶし

世帯数 8,912戸



入善町長

笹島 春人

入善町は富山県の北東部にあり、一級河川黒部川が形成した黒部川扇状地の中央に位置します。北は日本海に面しており、海岸線は11.5km、それを底辺とし南にとがった三角形をしています。

本町を特色づけるのは「水」です。黒部川の水は扇状地の中を伏流水として流れ、湧水となって先端部のいたるところで自噴します。この黒部川扇状地湧水群は、「全国名水百選」として選ばれたほか、湧水群の一つである「杉沢の沢スギ」は国の天然記念物に指定されています。

第7次入善町総合計画では、「水」が支える自然と文化、「大地」が築く暮らしと産業、「人」が育む未来と安心をまちづくりの基本理念とし、これからの町を担う子どもたちが、大きな夢をもって笑顔で成長していけるようなまちづくりを進めています。

入善町ホームページ



富山県砺波市

もうひとつ上の“となみ”

面積	127.03km ²	市の花	チューリップ
人口	47,447人	市の木	スギ
世帯数	17,320戸	市の花木	エドヒガンザクラ
		市の鳥	ヒヨドリ



砺波市ホームページ



砺波市長

夏野 修

庄川の流域に開けた扇状地、砺波（となみ）平野。

名水が潤す豊穡の大地は強靱な増山杉、黄金色の稲穂、色鮮やかなチューリップを育み、日本の原風景を彷彿とさせてくれます。

また、カイニョと呼ばれる屋敷林の中、切妻屋根アズマダチの農家が、基石を散りばめたように点在する散居村は春から夏は萌える緑、秋は黄金、そして冬は銀白のじゅうたんと四季折々、美しい田園風景を見せてくれます。

古き良き歴史と時代の躍動感が、人々の暮らしの中に脈々と息づき日本有数の住みよさを誇るまち。

新しい人の和、まちの和が、いま、水と緑の大地に広がっていきます。

住環境をはじめ医療や子育て環境、高齢者福祉の充実した住みやすい都市として、民間経済誌でも常に全国上位にランクされるなど、その豊かさ暮らしやすさは日本でもトップクラスです。

富山県高岡市

豊かな自然と町人文化が花咲くまち 高岡

面積	209.42km ²	市の花	かたかご（カタクリ）
人口	166,641人	市の木	つまま（タブノキ）
世帯数	69,544戸	市の花木	さくら



高岡市ホームページ



高岡市長

角田 悠紀

高岡市は、富山県の北西部に位置します。西側は山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、北東部は富山湾、東側は庄川・小矢部川によって形成された良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、深緑と清らかな水に包まれたとても自然豊かな地域です。日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3,000m級の立山連峰の大パノラマを見ることができます。

南北の交通軸には東海北陸自動車道と能越自動車道が整備され、平成27年3月には東西の新しい交通軸として北陸新幹線が開業し、また、伏木富山港の総合的拠点港の選定などを機に、飛越能地域の玄関口、環日本海沿岸地域における交流拠点都市として、新たな飛躍を目指しています。

豊富な歴史・文化資産やものづくりの伝統に支えられた歴史都市・高岡の強みをさらに磨き、活かしながら、まちの魅力、存在感を高め、「元氣なふるさと高岡」の創造を進めています。

富山県南砺市

さがかけて 緑の里から 世界へ

面積 668.64km²

人口 48,312人

世帯数 17,497戸



南砺市ホームページ



南砺市長

田中 幹夫

富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000mから1,800m級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。

面積は668.64km²（東西約26km、南北約39km）で、そのうち約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。また、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。

気候は、典型的な日本海側気候で、冬は寒く、降水・降雪量が多い地域です。中でも、城端・平・上平・利賀・福光の各地域は、特別豪雪地帯に指定されており、山間部では最大積雪深が3mを超えることもあります。また、平野部では春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、散居村特有の「カイニョ」と呼ばれる屋敷林で家屋を守っています。

富山県小矢部市

見て来て体験 メルヘンおやべ

面積 134.07km²

人口 28,795人

世帯数 10,509戸

市の花 菖蒲

市の木 宮島杉

市の花木 紅梅



小矢部市ホームページ



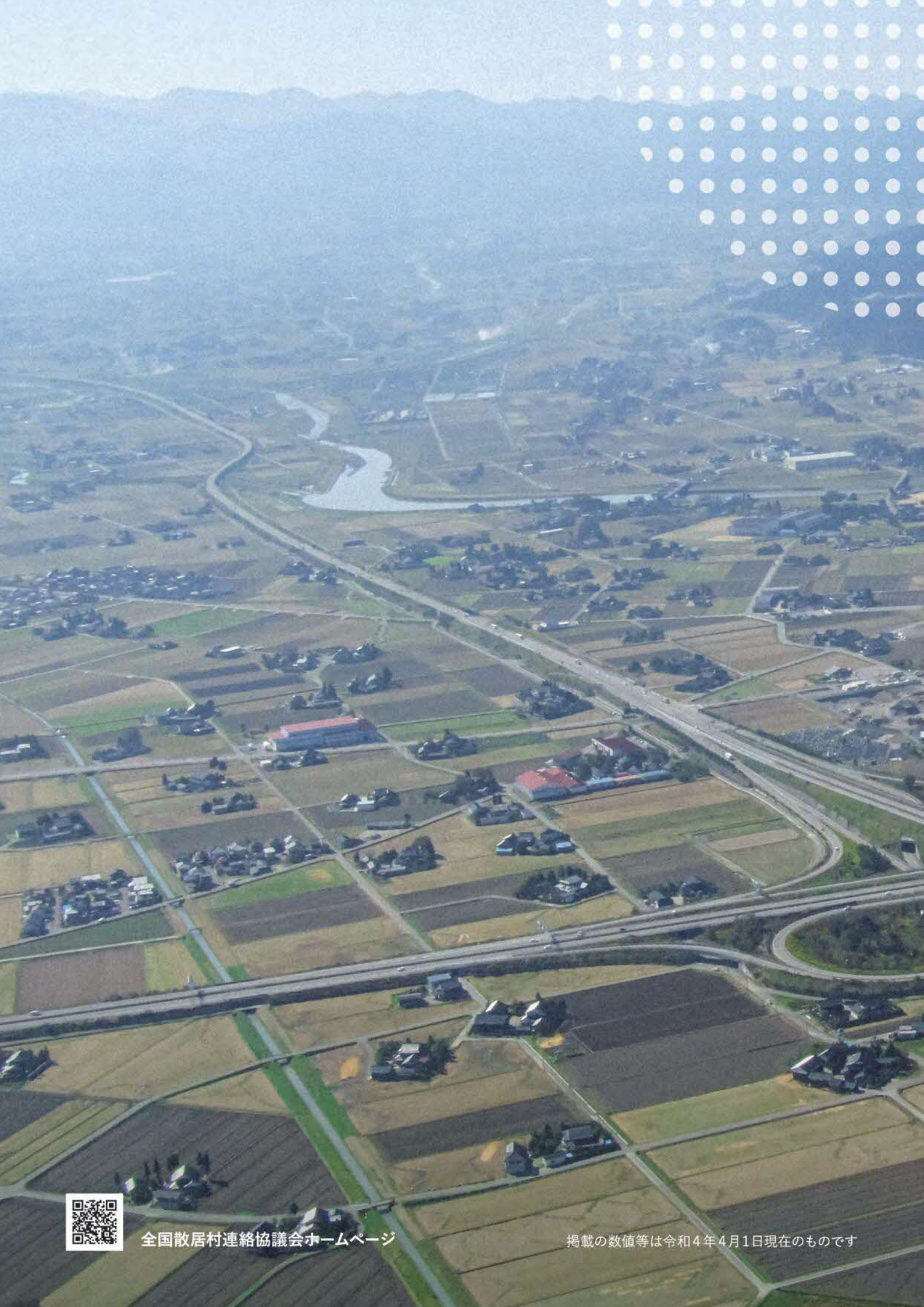
小矢部市長

桜井 森夫

小矢部市は富山県の西の玄関口に位置し高岡市、砺波市、南砺市、石川県金沢市及び津幡町と接しています。

北・西・南が山地に囲まれ、東に向けて砺波平野が広がっています。

古くからの交通の要衝であったことと、南北に貫流する小矢部川に育まれた穀倉地帯で水運が発達したことから、江戸時代には加賀藩の藩倉が置かれ、宿場町・城下町として栄えてきました。遠く加賀・能登・越中を一望できる稲葉山、清流と温泉の宮島峡、俱利伽羅古戦場と日本三不動の一つ俱利伽羅不動寺がある俱利伽羅県定公園などの豊かな自然や、歴史的な発見が続いた桜町縄文遺跡、絢爛豪華な石動曳山祭、色彩豊かな津沢夜高あんどん祭、獅子舞が奉納される石動天神獅子舞祭など歴史や伝統にあふれています。「魅力・安心・充実しあわせおやべ」を市の将来像に掲げ、地域の個性を活かした都市景観作りを推進しています。



全国散居村連絡協議会ホームページ

掲載の数値等は令和4年4月1日現在のものです